

食クラスターグループ

グリーンツーリズムの取り組み

北海道における食のグリーンツーリズムのあり方についての調査研究の一環として、2017年10月18日に上川地方東川町の(有)アグリテック・中田社長を訪問し、北海道の農泊の9割を占める教育を目的とする農泊についてお話を伺ってまいりました。

まず、アグリテックでは7月末に社会人向けの農泊研修を行っていました。これは会報誌2016年11/12月号32~33ページのアグリテックの取材記事を読んだ東京海上日動火災保険(株)からの相談をきっかけとするものです。中田社長によると、農業や食べ物、生産現場を知りたいなど明確な目的を持つ社会人の受入は、今後も続けたいと受入農家にも好評との事です。また、中田社長ご自身も、社会人向けの研修は社会貢献や従業員のメンタルヘルスケアの面から興味を示されている企業が多いようなので、企業向け農泊研修の受け入れの拡大についても考えられているなど、今後の可能性が感じられました。

今回、農泊を体験した東京海上日動火災保険(株)の社員の方々にも、お話を伺いました。

Q1. 今回の農泊研修の目的は？

弊社では、生産者の方々に対する「安心と安全」の提供を通じて、北海道の主要産業である農業および地域経済の発展に貢献すべく、独自の保険商品やサービスの開発・マーケティングに注力しております。農作業や農家さんの生活というものを実際に体験してみることは、弊社が農業分野での取り組みを進め

るうえでも有益な機会になると考え、まずは試行的に有志メンバーが任意で農泊研修に参加しました。

Q2. 農泊研修内容はどのようなものでしたか？

研修参加メンバーは3名で、愛別町の農家さんにお世話になりました。最初に体験したのは、ネギ畑の草取り作業でしたが、3名とも本格的な農作業の経験がなかったので、作業要領や留意点についてご指導をいただきながら行いました。畝の間やネギの株の脇に沢山生い茂っているヒエ(稗)やスベリヒユなどの雑草を手で抜き取るのですが、強い日差しの中で腰をかがめて作業を続けるのは結構大変でした。熱中症予防のため農家さんが用意してくださった冷たい飲み物で、水分補給をしながら夢中で働いて、農家さんにも「だいぶ作業がはかどって助かった」と喜んでいただきました。続いてアスパラガスの収穫作業を行いました。



(アスパラガスの収穫作業)

実際に体験してみて、アスパラの収穫作業は大変な重労働であることを、身をもって知りました。アスパラの生い茂った葉の下に潜り込むようにしゃがみこみ、地面ギリギリのところには鎌の刃を入れ、アスパラの親株を傷つけないよう注意を払いながら採取するため、

長時間の作業は腰に大きな負担がかかります。アスパラの他にも、トマト、ナス、キュウリといった旬の夏野菜の収穫もさせてもらいました。また、農家さんの家に泊まって夕食・朝食を共にし、農家さんの生活の様子、生産者としての誇り、苦楽など、様々なお話を聞かせて頂きました。

Q3. 農泊研修を通してどのようなことを得られましたか？

北海道の高品質・安心・安全な農産物が、生産者の方々の長年に及ぶ努力・知恵・工夫の積み重ねによって生産されているということ、体と心で実感することができました。また農家さんに聞いたお話から、生産者の方々を取り巻く自然災害や労災事故等の様々なリスクに対して、新たな補償や事故防止サービスを開発・展開して行くうえでの多くのヒントを得ることも出来ました。そして、農作業で汗を流す爽快感、採りたての生のアスパラや農家さんが丹精込めて作った無農薬栽培のお米など初めて味わった美味しい食べ物、納屋の中でのジンギスカンパーティ、澄んだ空気や満天の星空、農家さんや一緒に参加した仲間との語らいのひと時など、非常に感動的で忘れがたい体験でした。



(納屋でのジンギスカン)

Q4. 今後どのような農泊研修を希望されますか？

畑作・稲作のほか、酪農や果樹栽培など

様々な形態の研修により、多様な生産現場の実態やニーズについて、より多くの気付きが得られると考えます。また家族も参加できる農泊研修は、社員・家族の健康づくりや食育・社会教育といった面で有益だと思います。

以上のように、大変有意義な体験であったようです。

一方の修学旅行生を対象にする教育旅行について、アグリテックでは農作業が可能な5月から10月だけでなく、冬季の受け入れも雪国体験としておこなっていますが、12月に農家民泊を希望する学校があったことから、冬季でも作業可能な酪農地域での受け入れに向けた準備を行っていました。旭川周辺では、冬季に学校がイメージする農業体験ができないことから、これまで教育旅行の受入実績のない宗谷地方での酪農体験を、初めて実施することとなりました。

中田社長は今回の受入をきっかけに、教育旅行の受入時期や地域を拡大し、地域の活性化につなげていきたいと考えていらっしゃいます。

(取材所感)

企業向け農泊研修は、企業にとって新たなビジネス発見の機会だけでなく、受入農家にとっても有意義であったことに感銘を受けました。



(食クラスターグループ 田舎義憲)